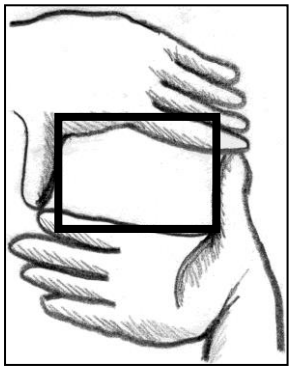
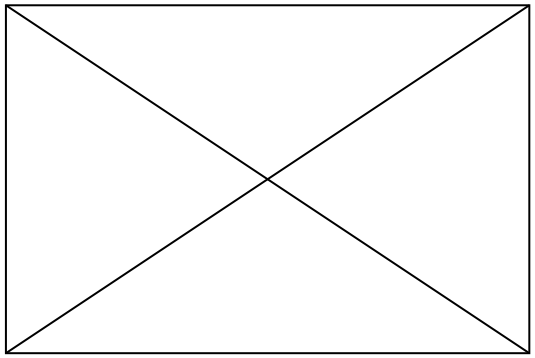
ものの描き方を学ぼう！

＊見たものをそっくりに描くことは美術の基本です。これができるようになれば、頭で考えたアイデアを実際に描いたり、作ったりすることが、より可能になります。今回はくつの描き方を勉強してみましょう。



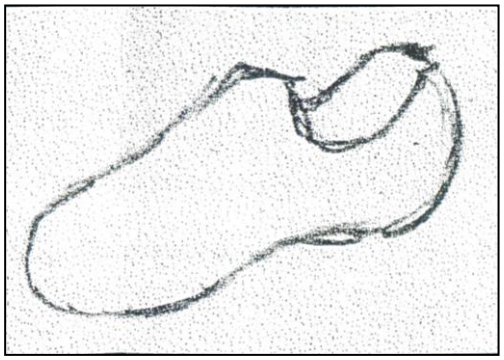
⓪構図（画面への対象物の入れ方）を決める。
○物、風景など、描くものすべてに応用が効きます。



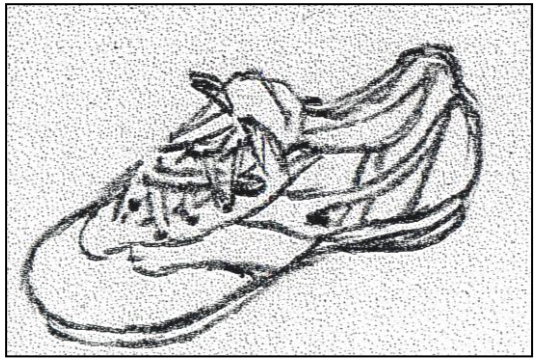
①描く前に画面の中心を決める。(対角線を引き、交わった所が中心)
(注:くつの置き方は自由だが、今回は勉強のため、斜めに置くこと)



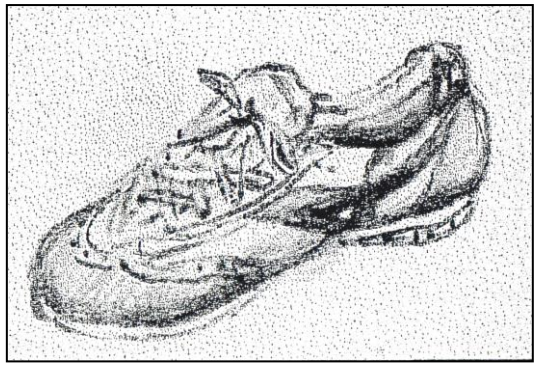
②描くもののりんかく線(物を形作っているいちばん外側の線)をおおまかに描く。
＊大きく描く。また、構図（画面への物の入れ方)を確認するために、絵から離れて観察する。この時、間違っていればなおす。



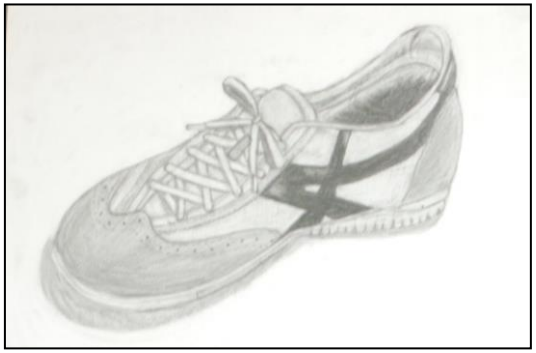
③不必要な線を全部消し、よく実物を見て、自分の絵の形と確かめる。中心線など確認する上で、じゃまになるので消す。



④りんかく線の内側の見える物すべて(くつひも、ベロ、ミシン目、など)やくつ底などの質感、色の違いなどもその物らしく描いていく。
＊ひもはよく見れば描けます。



⑤鉛筆でくつの立体感(絵から触れるような感じにする)ために一方向に陰をつける。
＊台の影も描いていく。(存在感を出すため)
＊１回描いたから終わりではない。何回も描き足すことが大切です。(鉛筆の色幅をうまく使いましょう！)



⑥背景をきれいにして完成。

年　　組　　番 名前